

どうか……

頭を真っ白にしてー

賢くなら……



あ、ん...

彼は…



この世界のどこかに
いるかもしれない…
もう一人の「あなた」

ぜひ

彼自身になった

つもりでー



この世界を
より一層

お楽しみください…



これから始まる…

淫靡で…インモラルで…

たまらなくドキドキする

素敵な毎日を…





吾城

2102



ああ…

あゝあゝあゝ…

マジ…か…

こ…
これ…

えへへへ…

はあっ…

はあっ…

う…ウソ…
だろ…!?



今…僕の目の前には—



と…と…と…

虚ろな眼をした

女性が立っていた



僕の育ての親
である...

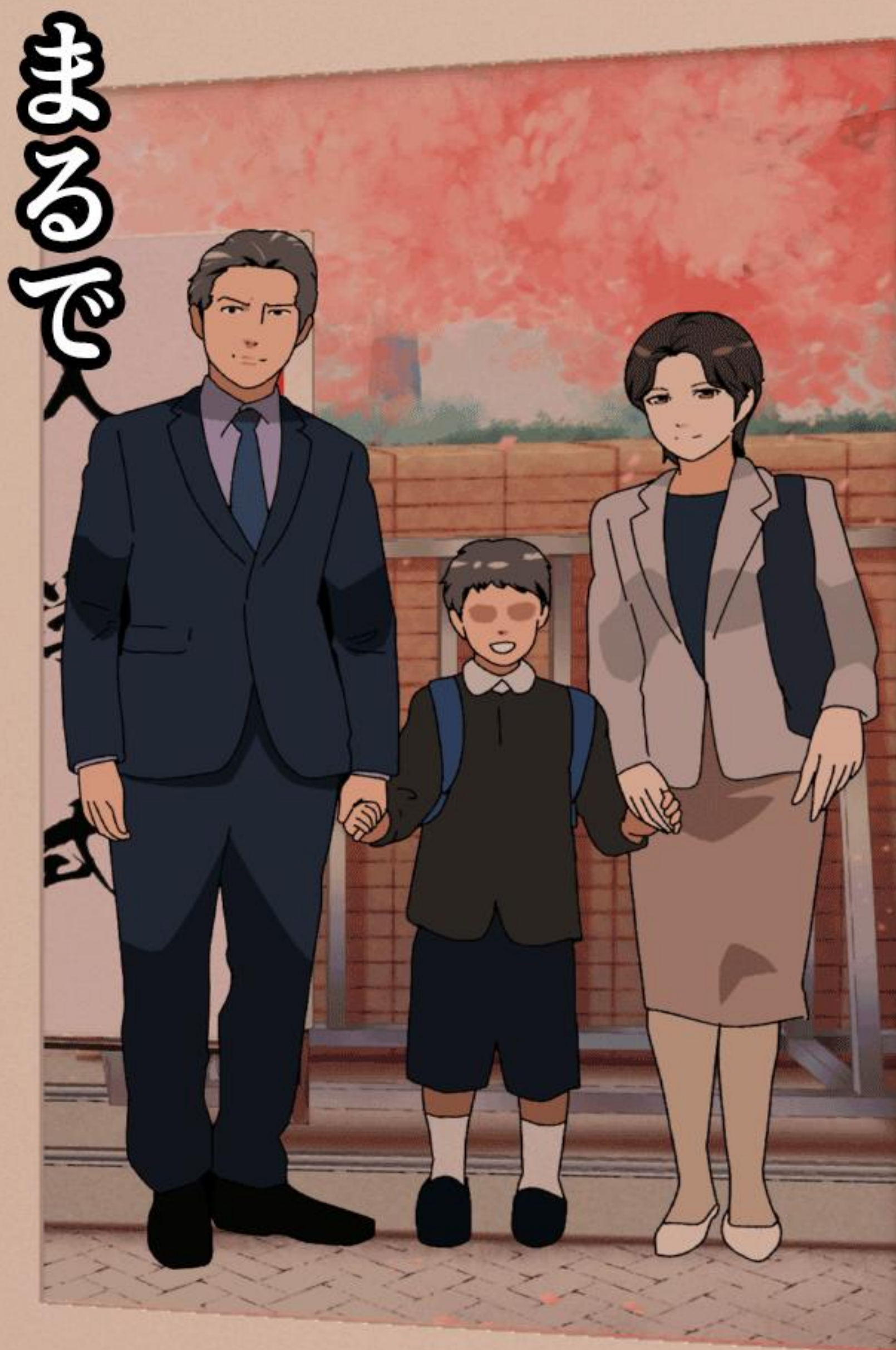
瀬莉さん...

...
...
...
...
...



...
...
...
...
...

僕は…幼少の頃から
瀬莉さんたち夫婦に



まるで
本当の子供のように
育ててもらったー

彼女の愛情は
時に優しく――



時に厳しく...

僕のために
真剣に怒って
くれたりもした



僕にとって...

本当の母親そのもの...



ただ…



まあ…最近—

…ふふふ…

…ふふふ…



…？

一つ屋根の下で
暮らす思春期の
男子としては

ちよつと
困ったことに
なっ
てい
て…

まあ…これは…

完全に

僕の方の問題では
あるんだけど…


そ…

えいへい…

その
瀬莉さんが…

えいへい…





まさか…

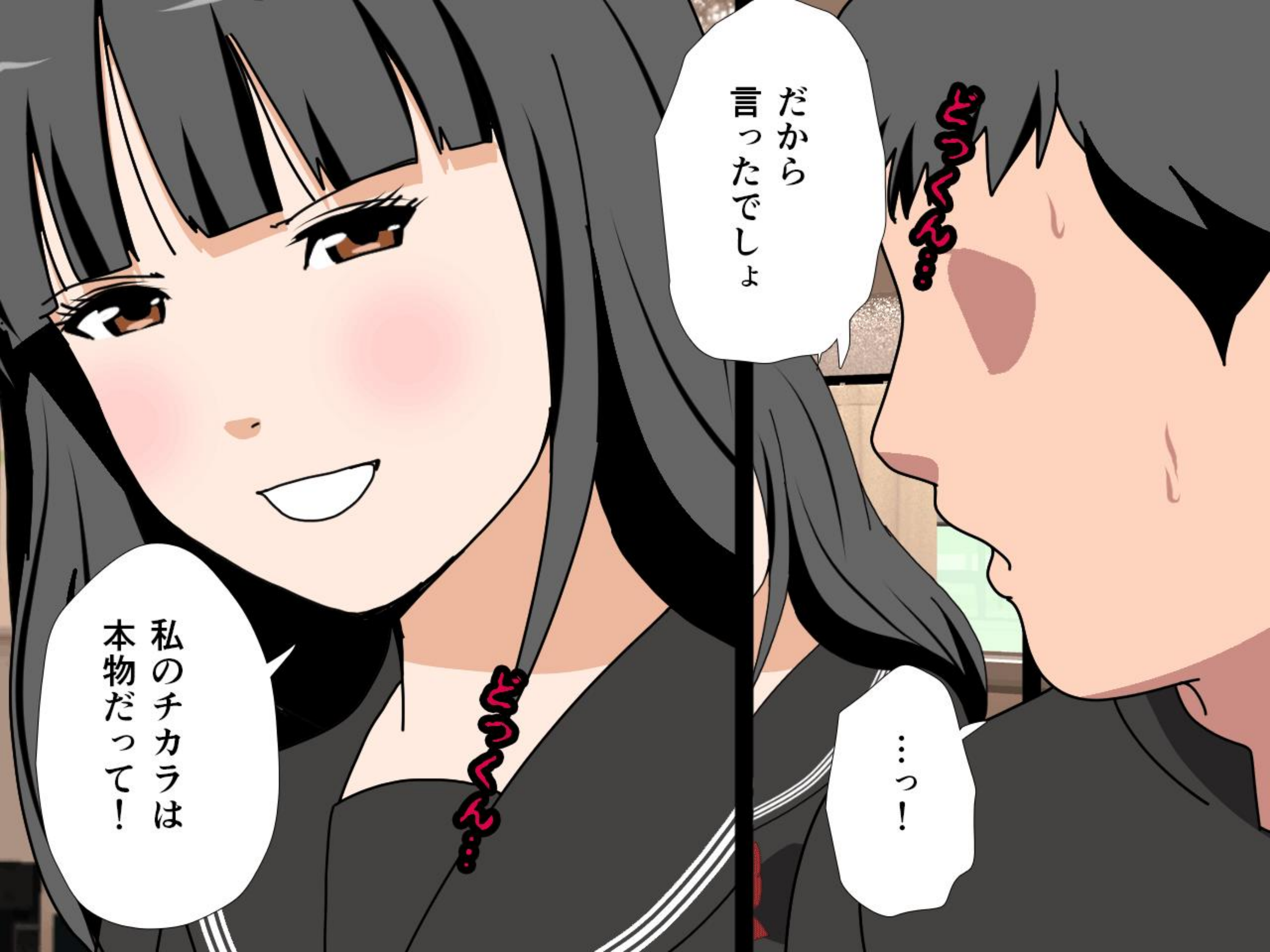
こんなことに
なるなんて…！

こ…これっ…!

ほ…ほんとに
か…かかっているのっ…!?

そ…その…
えっと…





だから
言ったでしょ

私のチカラは
本物だって！

…っ！



彼女は今――

催眠術に
かかっているわ



ほ…本物
だったのか…！

か…彼女の
言ってたこと…！



あの
日





謎の転校生から
告げられたー

彼女の
ヒミツの能力
のこと...



でも正直…全く
信じていなかった…

厨二病の
痛々しい戯言だと
くらいにしか…

どうして…

どうして…





な…何者なんだ
この転校生…！

や…
ヤバすぎる
だろ…！

きゅんきゅん

きゅんきゅん



きゅんきゅん...

きゅんきゅん...

なんだこれ...!

な...

な…
なんか
知らないけど

め…めちやくちや
ドキドキする…！

し、心臓が
破裂しそうな
くらいのの

…こ…
興奮が…！

どっぴん…

はあっ…

はあっ…

はあっ…

どっぴん…



ほら…
早く命令を



何してるの？

…っ！



.....!

vvvvvv...

vvvvvv...

そ…そうだ
確か…

「催眠術をかけた
相手に

命令をする」



ふっふっふ...

「そうすれば

相手は

命令通りに

動いてくれる」

ふっふっふ...

あの時

彼女はそう言っていた—

な...なんでも...

僕が命令すれば
なんでも...



えっ…

え…

え…エツチな
命令でも…

あの瀬莉さんが...

どうして...

僕の言う通りに
なってくれるのか?

どうして...



ほ…ほんとうに…？

あああ

そ…そんな

ヤバいことが

本当に…

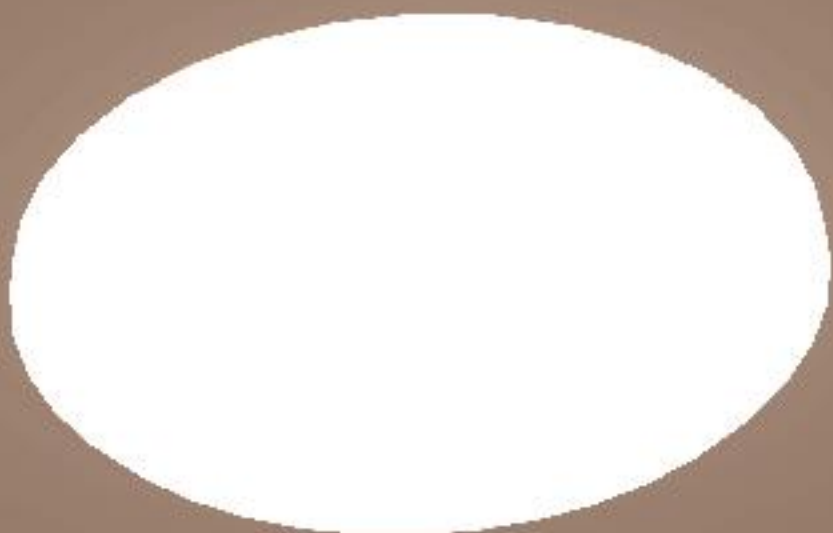


.....!

.....

.....

……



……シタ……い……



……

まあ♥

セックスがっシタいっ!

どっど

瀬莉さんとセックスシタい!



ずっと…
ずっと我慢してたっ

子供の頃は
そんな意識して
なかったのにつ！

ぎゅっ…

ぎゅっ…




た…たまら
ないんだっ！

なんだか最近…
瀬莉さんが
近くにいます

どっぴん…

どっぴん…



な…なんでもない
ちよつとした
ことでも…

ドキドキして…
悶々と
しちゃって！

僕は今まで

抑えつけていた感情が

瀬莉さんに
こんな気持ち抱いちゃ
い、いけない！って
思えば思うほど…

な…なんだか
こ…興奮する
ように
なっちゃって…



爆発するように……

もう最近はっ…
妄想して…

自分でっ……!

吐き出して
しまっていた……





フ
フ
ッ
...

...
フ
フ
ッ
...

...
フ
フ
ッ
...

僕の初めての
相手になってよっ！

僕とセックス
してほしいっ



僕と…男と女の
セックスを…
教えて欲しいんだ！

あーっ

あーっ

あーっ



瀬莉さんが
筆おろしして
くれるなら

こんな幸せな
ことは…ないよっ

だからっ…

ぼ…僕と
セックス…!

して…!

ふんふん…

ふんふん…



い…言っただぞ…!

め…命令…っ

こ…これで…っ



ほ…本当に

瀬莉さんとうん..

せ...
ふふふふ...

セツクス……

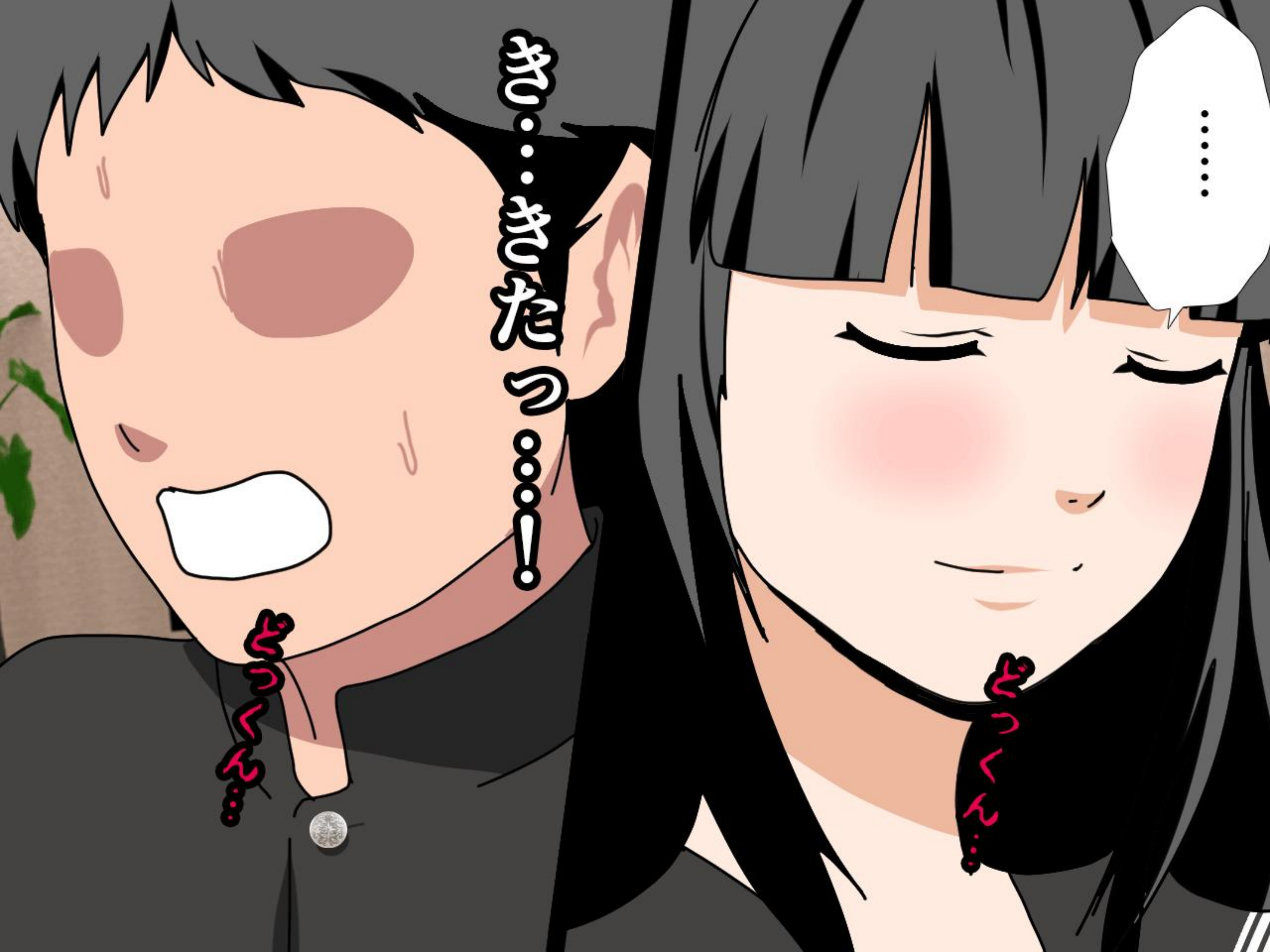
君と...

わた...し...が...

せ...っく...す...

いっへん...

いっへん...



願いが
叶うっ……！

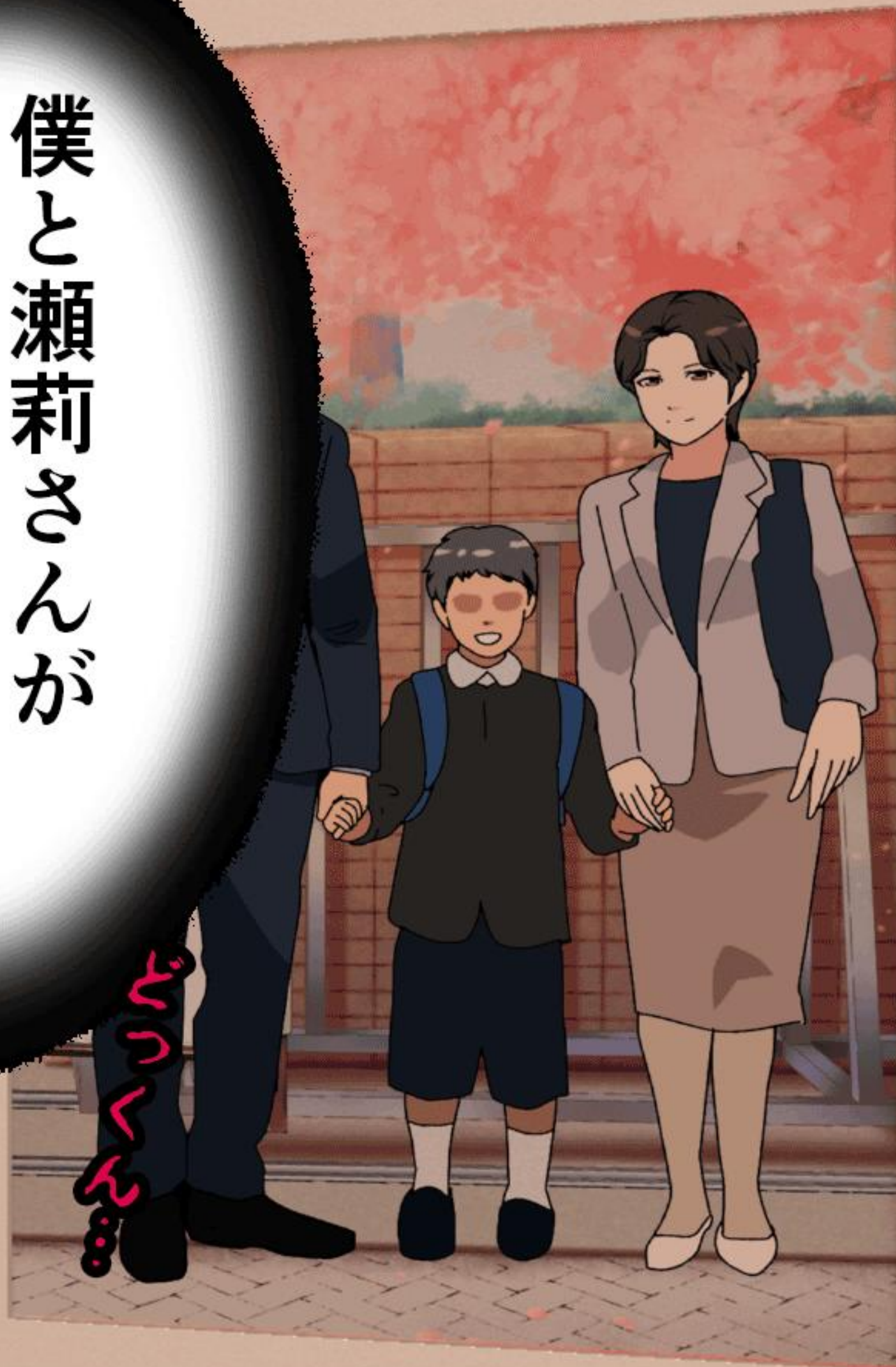
思いが
実現するっ……！

ふっふっふ……

ふっふっふ……

っ…っいに…!!

僕と瀬莉さんが
男と女の関係に…!!



は……

でき……ない……

ふんふん……

ふんふん……









催眠術...

...失敗。

サークルENZIN的
催眠学園



なっ
…

ふんふん
ふんふん
ふんふん

ふんふん
ふんふん
ふんふん

なんだよ
これっ…

…で…できないって
言ったのか？

そんなっ…
も…もう一回っ

えっ…えっ…

えっ…えっ…

せ…セックス
したいんだっ！

瀬…瀬莉さんとっ…
え…エッチが
したいっ

で…
できるだろっ？

どっへん…

どっへん…



め…命令だ！

ぼ…僕と
せ…セックス
してくれっ！

たのむっ！

どうくん…

どうくん…



君と
セックスは…

…で…
き…な…い…

えへへ…

えへへ…

…絶対に…

…で…

き…ない…

シテは…
いけ…
な…い…

きゅん…

きゅん…



おい！
どうなって
んだよこれっ

命令したら
その通り動くって
言ってただろ？

できねー
じゃん！

.....

どっへん？

そういえば
「最近力に目覚めた」って
言ってたよな！

……

もしかして
ただのポンコツ
だったんじゃない？

おまつ……
ちゃんと他で
試したんだろうな？


うるさいなー

私だって
困惑してる
んだから

ちよつと
黙ってて…


[illegible]





…私の力がまだまだ
発展途上なのは
否定しないけど…

多分…私だけの
問題じゃないわ



だって…そもそも
催眠術にかかった状態で
こんなに自我がだせる
こと自体…他では
なかったことなのよ…

こんなの…
今回が初めてだわ

…っ！

も、もしかして
彼女…っ

さ、催眠術が
効かない体質
だったとか？



それは
ないわ

とすると...

催眠状態には
なってるんだから
催眠そのものがかりにくい
体質ってわけではないはず...

考えられる
原因は一つ...

命令の内容が

恐らく…

彼女の中で相当に
抵抗があった…

ってことかしらね

……

……



嫌…シタくない…



私の力を
跳ねのけちゃうくらいに

そんな
命令だったから

催眠術にかかっているながら
抵抗してしまったのでは
ないかしら

とっへん...

とっへん...



まあ要するに
倫理観が
暗示を妨げたって
わけね：

逆にいえば

息子であるあなたを
大切に思う気持ち
がそれほどまでに
純粋で強いって
ことなので――

これは

喜ぶべきこと

かもね

大切に
されてるんだ…

キリ

……っ！

きゅんきゅん

きゅんきゅん

















じゃあね...

うん...
うん...
うん...

うん...
うん...
うん...



私の催眠術が
かかってない
わけじゃないのよね
何度も言うけど

やり方次第で
まだなんとか
なるんじゃない
かしら



どっぴんぽんぽん...

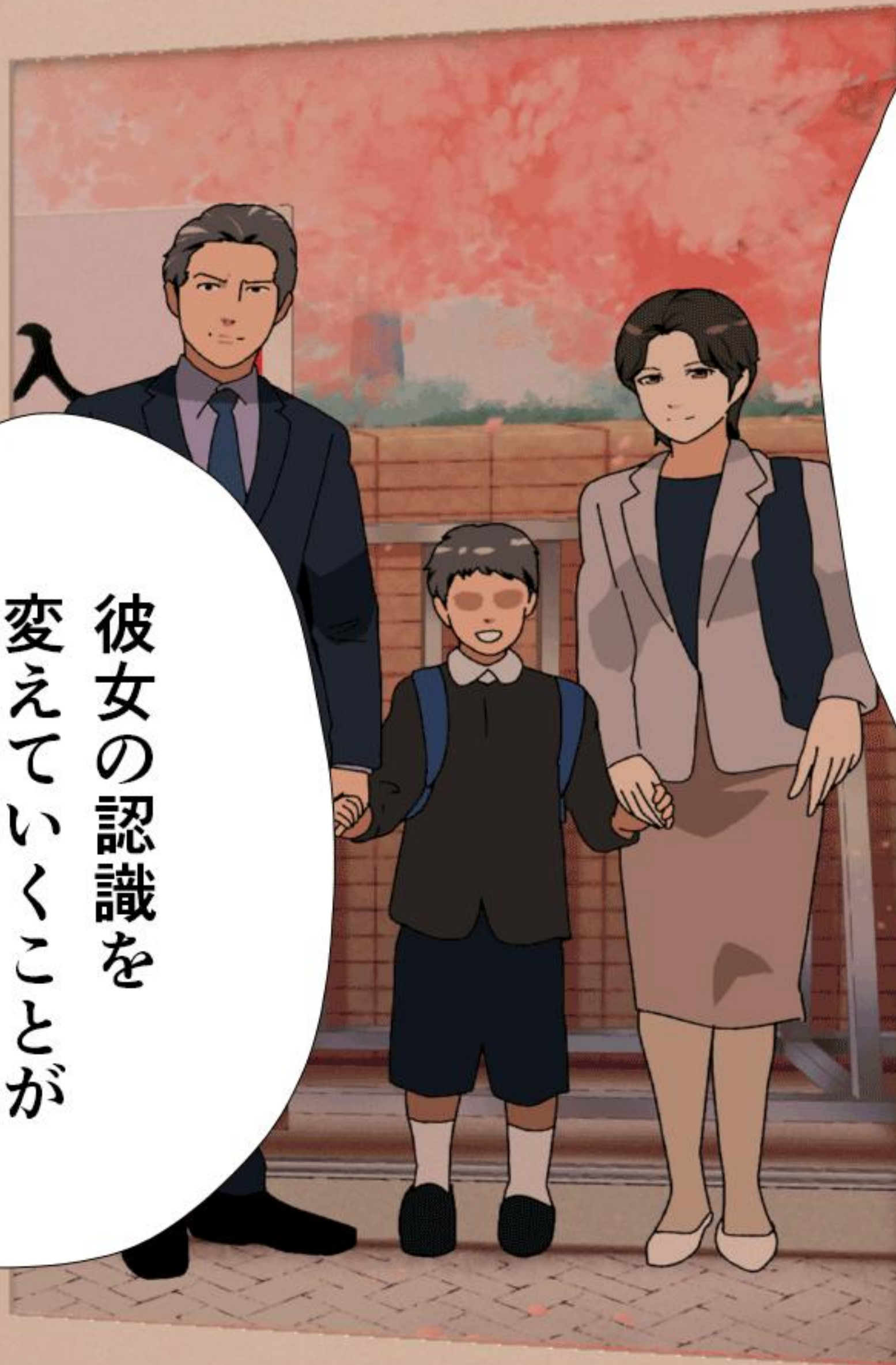
暗示にかからない
要因が
彼女の中の
倫理感にあるのなら


そのハードルを
下げていけばいいのよ

どっぴんぽんぽん...

息子であるあなたと
セックスはしてはいけない
そう思ってるー

彼女の認識を
変えていくことが
できれば…





その時はきっと
暗示も通るように
なる――

かも…


そ…
そんなことが…

で…でも
どうやって？

だからあ…
やり方次第よ

どっく…

どっく…



ま…私もこのまま
ポンコツ扱い
されてるのも
癪だから…

力を貸して
あげるわ

いっしょに始まった...



瀬莉さんに…

「催眠術」をかける—

僕たちの

淫靡で背徳的な

奇妙な毎日…



だけどそれが
まさか後に…



学校中を
巻き込んだ
あんなことに
なるなんて……！



その時は

思いも

しなかつたんだ

サークルENZIN的
催眠学園

体験版は以上になります！

続きはぜひ本編で
お楽しみください…！